

***親子で納得 ニュースな経済学



経済ジャーナリスト・内田裕子

宇宙開発はビジネスチャンス

いま、鹿児島県の種子島にある宇宙センターに
来ています。「H2B」というロケットの打ち上
げの取材できたのですが、打ち上げは無事に成功。
関係者はひと安心という面持ちです。

今回の「H2B」ロケットは、「HTV」とい
う補給機をのせて打ち上げられました。「HTV」
は日本の先端技術がつまった乗り物で前評判も高
く、外国の技術者からも注目されていました。

「HTV」は簡単にいうと無人の貨物船です。
打ち上げ後、ロケットから切り離された「HTV」
の行く先は国際宇宙ステーション（ISS）です。
ISSは日本、アメリカ、ロシア、ヨーロッパの
国など15か国が協力して、1988年から建設が進め
られてきた有人宇宙施設です。この前、日本の実

験も完成したので、今後、日本人もISSでさ
まざまな実験を行うことになります。ISSには
6人の宇宙飛行士が滞在していますが、必要な食
料や衣類、実験を行うための機材は地球から運ば
なければなりません。来年からその役割を日本が
担うことになり、そのために開発された補給機が
「HTV」なのです。「HTV」が画期的なのはI
SSとのドッキングで、ある程度の距離まで近づ
いたらエンジンを止め、ISSのロボットアーム
でつかんでもらう技術を採用しました。衝突事故
の確率が大きく減ると注目されています。

さて、この「宇宙宅配便」。1回打ち上げるのに
どれくらいお金がかかると思いますか。答えは147
億円です。また、今回のプロジェクト「H2B」
と「HTV」の開発費は、875億円と大変な金額で
す。ここには国民の税金が使われているのですが、
多くのお金をかけて宇宙開発に投資する目的はど
こにあるのでしょうか。宇宙の可能性はまだ未知
数なので、日本も初期段階から宇宙開発に参加し

ておくのは、
先行投資とい
う意味で重要
だと思いま
す。ビジネス
についての考
えを「宇宙航
空研究開発機
構（JAXA）」に聞く

と、人工衛星を飛ばすニーズは世界各国にあり、
それを日本が請け負っていくことで、今後、ビジ
ネスとして期待できるのだということです。

そうすると、今回のプロジェクトは、日本の宇
宙ビジネスの重要な一歩になります。ぜひとも成
功させてほしいと思います。



打ち上げられたH2Bロケット＝
11日、鹿児島県南種子町の種子島
宇宙センターで
©朝日新聞

プロフィール 玉川大学芸術学部演劇専攻卒業後、大
和証券に入社。2000年に財部誠一事務所に移籍。製
造現場の取材や経営者のインタビューなどの仕事を
こなす。テレビ出演、執筆、講演活動を通じて経済
の情報を伝えている。